

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行について（警報）（速報値）

令和6年 1月30日（火）15時00分

北海道渡島保健所
（北海道渡島総合振興局保健環境部保健行政室）
電話：0138-47-9543

北海道では感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき感染症発生动向調査を実施しておりますが、令和6年（2024年）第4週（令和6年1月22日～令和6年1月28日）において、渡島保健所管内の定点あたりのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告数が、警報基準である8人以上となりましたので、まん延を防止するため渡島保健所管内では警報を発令します。

今後、渡島保健所管内において流行がさらに拡大する可能性がありますので、感染予防に努めるようお願いいたします。

記

1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の感染予防

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は飛沫感染、接触感染を起こすため、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いなどの一般的な予防方法が有効です。

また、集団の中ではマスクを着用することも感染予防の有効な手段となります。

2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はいずれの年齢でも起こり得ますが、3歳以下や成人では典型的な臨床像を呈する症例は少なく、学童期の小児に最も多くみられ、家庭・学校などの集団での感染も多くみられません。

突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴うことがあります。

咽頭壁は浮腫状で扁桃は浸出を伴い、軟口蓋の小点状出血あるいは舌の変化として、発症早期には白苔に覆われた舌がみられ、その後白苔が剥離して莓舌となります。

なお、全道のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行状況は北海道感染症情報センターのホームページでご覧になれます。（URL：<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/602/map.html>）

3 その他

（1）最近5週における定点医療機関あたりの患者報告数（単位：人）

	第52週 (12/25～12/31)	第1週 (1/1～1/7)	第2週 (1/8～1/14)	第3週 (1/15～1/21)	第4週 (1/22～1/28)
渡島保健所	10.75	5.00	3.25	4.00	10.50
全道	5.67	3.34	4.20	6.27	-
全国	3.82	1.74	2.83	4.28	-

※第4週の患者報告者数は速報値。

（2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報とは

厚生労働省の感染症発生动向調査により把握した、渡島保健所管内の定点医療機関を受診したA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者数が、国立感染症研究所において設定した警報レベルの基準値に達したときに発令し、大きな流行の発生や継続が疑われることを示しています。

< A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報の発令基準 >

	開始基準値	終息基準値
定点あたり患者数（人）	8	4